

社会情勢を踏まえ、オンラインセミナーとの併催とさせていただきます。また状況に応じ、オンライン限定の開催などと、変更させていただく場合もございます。ご理解頂けましたら幸いです。

第9回 !! 『いただきます.info』セミナーのご案内

食を敬う

～ 食文化、SDGsから食品ロスまで ～

- ◆ 日時： 2022年 8月 20日 (土)
 - 第1部 セミナー 13:15～17:00
 - 第2部 パネルディスカッション 17:00～18:00
 - ※ 実物のおせち料理を前に、おせちの英訳に関し、意見交換いただきます
- ◆ 会場： **来場者向け会場** 航空会館 9F 901号室 (東京都港区新橋1丁目18-1)
オンライン会場 ZOOM ミーティング (詳細は、申込メールにて)
- ◆ 主催： 非営利任意団体 『いただきます.info』
- ◆ 共催： (一社) はしわたし研究所、資源と環境の教育を考える会 『エコが見える学校』
- ◆ 後援： ※ 申請中 **文部科学省、農林水産省、外務省、環境省**
- ◆ 参加費： セミナー；無料
- ◆ 演者：
 - ◎ **成田 潤也 先生**
神奈川県 厚木市立 鳶尾小学校 総括教諭 (元 神奈川県教育委員会 指導主事)
講演；(演題調整中) 「外国語活動における、異文化理解」
 - ◎ **ピアース・ダニエル ロイ 先生**
四天王寺大学 教育学部教育学科 講師
講演；(演題調整中) 「食・文化・生活を通じた異文化理解」
パネルディスカッション； おせち料理を英語で表現する
 - ◎ **宇都宮 由佳 先生**
学習院女子大学 国際文化交流学部 准教授
パネルディスカッション； おせち料理を英語で表現する。

- ◆ 申し込み・お問い合わせ先：
 - 【Webサイト】 右QRコード、または下記HPよりお申し込みください。
「いただきます.info」 <https://itadakimasu.info/>
 - 【E-mail、FAX】 ①ご氏名、②ご所属、③お役職名、④参加時間帯
⑤ご参加手続き完了通知のお送り先 (E-mail・FAX)、
上記を記入のうえ、次までお申し込みください。
<E-mail> info@itadakimasu.info <FAX> (03)-3539-3447





和食文化における「自然への敬意」は環境負荷削減の動機として見直されておりますが、多様性や人権の視点からも、他の文化の価値に対し目を向け相互理解することは重要です。特にSDGsやESGなどの注目が高まる中、異文化間の尊重はより意味を持ちます。

これを踏まえ、『いただきます.info』では、おせち料理・江戸の町並みのペーパークラフトの企画開発と平行して、英語版ペーパークラフトの企画を進めて参りました。

第9回いただきます.infoセミナーに関しましては、和食文化における「自然への敬意」を俯瞰するべく、『外国語活動』や異文化理解・英語で伝える日本文化をテーマとさせていただきます。

皆さまにおかれましては、御多忙の中とは思いますが、是非、ご参加のご検討をいただければ幸いです。

いただきます.info事務局

関係する指導要領・指導要領解説など

【平成29年度告知 学習指導要領 第4章 外国語活動 ※【】内は指導要領解説より】

2 内容 (1) 英語の特徴等に関する事項 イ

(イ) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。〔外国の文化のみならず**我が国の文化**を含めた様々な国や地域の生活、習慣、行事などを積極的に取り上げていく〕、〔児童にとって身近な日常生活における**食生活**や遊び、地域の行事などを取り扱うことが適切〕、〔多様な文化の存在を知り、また、**日本の文化と異文化との比較**により、**様々な考え方**があることに気付く〕、〔我が国の伝統文化についての理解を深め、英語によるコミュニケーションの中で**我が国の文化を発信**すること〕、〔「**いただきます**」という表現にうまく合致する表現が英語にはないことに気付かせたり（中略）するよう、活動の工夫が求められる〕

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)

オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。〔様々な国の生活や文化と**我が国の生活や文化との共通点や相違点**に気付くようにするとともに、言語や文化に関心をもち、尊重できる態度を育成することが大切〕、〔国語や我が国の文化について理解を深め、その**特徴や良さについて発信**することができるような指導を大切にしたい〕

【令和3年 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）】

外国人児童生徒等が将来への現実的な展望が持てるよう（中略）子供たちのアイデンティティの確立を支え、自己肯定感を育むとともに（中略）これまで以上に母語、母文化の学びに対する支援に取り組むことも必要である。（中略）日本人の子供を含め、多様な価値観や文化的背景に触れる機会を生かし、多様性は社会を豊かにするという価値観の醸成やグローバル人材の育成など、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育に更に取り組むべきである。（5. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について）